

発表者氏名： 森山 美鈴

所属学校： 小学校

派遣職種： 小学校教諭

派遣国： ホンジュラス

派遣先： ビジャ・サン・アントニオ地区
教育事務所

タイトル： 中米ホンジュラスで感じた日本

キーワード： 中米ホンジュラスで感じた日本

発表要旨：

中米最貧国の一つと言われる、ホンジュラス共和国では、小学生の留年率の高さが問題になっています。留年児童の多くは算数を苦手としており、その背景には教員の基礎学力と指導力不足があります。そこで10年以上前に始まったJICAの『算数指導力プロジェクト』により、算数の教師用指導書と児童用作業帳（書き込み式教科書）が作成され、全国配布されました。私の活動は、それを用いた算数科授業の質の改善でした。日本の教科書にそっくりなこの作業帳には、児童が、「なぜそうなるのか？」を考えるための問題や、ヒントが盛り込まれています。これまで、機械的に解き方を説明するだけの授業をしてきたホンジュラス人教員にとって、これを使いこなすことは容易ではありません。それ以前に、小学校算数の学習内容をきちんと理解している教員自体少ないのです。

念願叶って参加した協力隊。どんなに過酷な生活が待っているのだろうと思っていましたが、私の場合、電気や水・食べ物にもほとんど困らず、快適な生活環境でした。また、明るくて人なつこく、小さなことを気にしないラテンの雰囲気は、大雑把な性格の私にピッタリ。たくさんの良い人たちに囲まれて、自分のペースで活動を展開できました。

ゆったりとした時間の流れの中で、子どもは大人の背中を見て素直に育つホンジュラス。算数の授業や先生たちの職業意識に何度もがっかりさせられながら、日本の良さとホンジュラスの良さの両方が、客観的に見えた良い機会でした。現地の人とともに、ホンジュラス人に合わせて活動すればするほど、自分の中の『日本人の当たり前』が浮き彫りになりました。

同じ世界に住む仲間として、そして日本人として、私たちができることは何でしょうか。また、国が違っていても共通して大切なことは、何でしょうか。このステキな経験と、それを通して感じた多くのことを、日本の子どもたちに伝えていきたいと今思っています。



教員の知識・指導力向上のため、地区の教員を集めて研修会を開いた。教科書に載っている単元の基礎的な知識と、指導法を併せて学習する。テーマは主に、図形など。